



長岡市医師会

長岡市医師会

理事 三 上 理



長岡市医師会理事2期目の三上と申します。草間会長3期目1年が経過し、長岡市医師会の現状について報告いたします。

令和7年4月現在、A会員113名、B会員367名、研修医51名、計531名です。

長岡市医師会は、寺泊から小国、山古志まで、市街地から海岸部、山間部まで、広範囲を抱えています。他の医師会同様、医療過疎地対策はもとより、二次医療圏の高度救急から回復期、慢性期病床確保対策まで、各診療所ならびに各病院と連携し、試行錯誤が続いております。

まず医療過疎地対策ですが、令和5年度より山古志地域を対象に、長岡市と長岡中央総合病院の協力の下、オンライン診療車を導入し、オンライン診療を開始しました。山古志地域は常勤医がおらず、非常勤医が以前の診療所を使用し住民への診療を行ってきましたが、令和5年1月より診療所を活用しオンライン診療を導入。さらに同年11月よりオンライン診療車を導入し、より多くの診療を行うことが可能となりました。この実績を踏まえ、今後小国や寺泊でのオンライン診療導入も見据えていきます。さらに県内他地域へも、長岡モデルとして紹介できればと思います。

さて、二次医療圏としての長岡市医師会の問題は、これまでの長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、立川総合病院の3病院ならびに長岡市と消防

の連携による二次救急の輪番制の維持です。現在立川総合病院消化器内科が休止しており、消化器疾患の救急は長岡赤十字病院ならびに長岡中央総合病院が交代で対応しております。また、小児救急も3病院での小児科医配置変更等により今後3病院での輪番体制が崩壊する危機に面しております。母体の異なる3病院ならびに長岡市、長岡市医師会の顔の見える関係で維持してきた、長岡市ならびに周辺地域の医療提供は今後予断を許さない状況となっております。

明るい状況としては、コロナ禍も明け、会員活動も活発になっており、各種対面での会合、懇親会、昭和より続く月例ボウリング、会員ゴルフ大会等のレクリエーションが本格化しております。ただ、参加者の高齢化が目立ち、今後新規若手参加者の参戦が望まれます。また、令和4年より会員旅行も再開し、会員親睦を深めております。

平成27年に開始したフェニックスネットは医療、介護、救急をつなぐ欠かせないツールとして現在も運用中です。今後在宅での看取り、病院機能維持にさらに役立つと思われる、積極的な運用を継続いたします。

長岡市医師会は、今後も地域の医療ニーズに応えるため、様々な取り組みを続けていく所存です。市の規模や医療資源の多様性を活かし、医療の質を向上させるべく努力を重ねて参ります。